

そうぜんじ便り

19世 俊諦和尚筆

第142号

令和2年 秋彼岸号
臨濟宗 宗禅寺
建長寺派
住職 高井和正
閑栖住職 高井正俊
羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

例年通りのお祭りは中止とし、薬師堂にてコロナ物故者追悼とウィルス退散のお勤めを致します。

第四十七回土曜講座

川崎一本木薬師堂

コロナ追悼退散祈願法要

雨天決行

令和二年十月三日(土) 十六時より

式次第

- 十六時 薬師堂にて ◆ 鎌倉流ご詠歌奉詠 ◆ 疾病退散・コロナ追悼供養法要
- 十六時半 本堂にて ◆ ヴィオラ演奏 田村しおりさん
- 十七時終了予定 ◆ 講談「川崎一本木薬師堂縁起」 講談師 菊地 玉雲師

※例年行っていましたタイ焼きや焼きそばの屋台とけんちん汁の振る舞いは、本年は行いません。

コロナ追悼・ウィルス退散

長い梅雨が明けて例年通りの暑い暑い夏となりました。コロナウィルスとのお付き合いも長くなりました。

宗禅寺では毎年十月の第一土曜日に薬師如来例大祭を開催しています。ただし、本年はコロナの状況を見ても、例年通りのお祭りを開催することはできません。

しかしながら、羽村川崎の地を見つめ、お守り下さっているお薬師様をお囲みして、「コロナ追悼・ウィルス退散」の祈願法要を執り行うことと致しました。

現在はお寺の境内にいらっしゃるお薬師様ですが、かつては村持ちの仏様でした。宗禅寺が創建されるはるか以前より、地域の人々が手を合わせ、健康をお守りしてきた仏様です。苦しい時の神頼みではないですが、仏頼みも全ては信じるころから始まります。賑やかなお祭りが再び開催できることを祈願致します。

◎お彼岸の付け届けは同封の封筒の通りです。御協力の程、お願い致します。

◎秋の彼岸早朝坐禅会を行います。
九月十九日(土)～二十五日(金)。
毎朝六時～七時です。予約不要です。

◎山門での墓参のお花の販売は十九日～二十七日まで行います。

◎秋の麦鉢(寺の維持費)は、御持参か郵送による振込になりました。お手紙がいきます。

春の文化展のお知らせ

来年の春 三月十九、二十、二十一日(金・土・日)に行います

春の文化展、出品関係者の皆様方、いかがお過ごしでしょうか。今年の春のお彼岸に予定していましたが宗禅寺春の文化展は、皆様方の積極的な参加と準備をいただきまして開催の運びになっておりました。

ところが、皆様方ご承知の如く、コロナ禍によりまして急遽、中止の止むなきに至りました。とても残念なことであり、出品予定の皆様方には、大変なご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありませんでした。

諸準備も調っておりましたので、この秋のお彼岸に開催をと、思っておりましたが、寺子屋委員会にて、皆様方のご意見をうかがいました処、この秋は見送って、同じ形で来年の春のお彼岸に行つてはどうかということになりました。不用不急という言葉もありましたが、あわてずに来春に行うことが妥当ではないかと思ひます。

出品予定者、関係者の皆様方には、この間のご事情をご賢察いただき、来春に向けて準備をすすめていただければと思います。期日は三月十九日～二十一日(金、土、日)となります。搬入については、例年通り、前日の十八日午後一時を予定しております。名前も今年と同じく、「羽村アート展2」になります。通常の展示は例年通りです。以上ご連絡が大変遅くなり、誠に申し訳なく思っていますが、ご寛容のほど、お願い申し上げます。

それでは皆様、来春また、元氣な作品をお寄せいただきたく、ご期待申し上げます。

令和二年九月

宗禅寺寺子屋委員会

医王山 宗 禅 寺

宗禅寺春の文化展関係者各位

コロナ禍 孟蘭盆・施餓鬼会報告

毎年七月十五日午後に孟蘭盆供養の施餓鬼法要を執り行つていきます。今年はコロナのため、規模を縮小して行いました。近隣の和尚さんの往来もなく、儀式にご参加いただいたのは、新盆をお迎えした方々のみにさせていただきました。お盆中、お墓参りに来て下さった方で、驚かれた方もいらつしたかもしれませんが、例年本堂内に設置してお盆の施餓鬼棚を今年は外の本堂前の庭に出しました。

本堂内が上がらずとも、ご来山いただいた皆様に手を合わせていただけるとうしたもので、来年以降もこの形で継続致します。

施餓鬼棚には「三界萬霊」のお位牌もお祀りしていますが、生きとし生けるあらゆる命に対して感謝の心をお送りするための法要でもあります。来年以降も、ご来山の折、施餓鬼棚にてお参りしていただくと大変有難いです。

お盆中の早朝坐禅会は普段通り行いました。お盆とお彼岸の朝の坐禅は、六時～七時までの一時間と時間も短いので、初心者の方にはお勧めです。

そうぜんじ便りお盆号に同封して、毎年通りのお盆の付け届けをお願いさせて頂きました。コロナの影響で経済活動が停滞しつつある中で、多数の皆様にお納めいただきましたこと、末筆になりますが、厚く御礼申し上げます。

寺子屋委員会 秋の寺社巡りの旅 中止のお知らせ

例年秋に開催しておりました、寺子屋委員会主催の秋の寺社巡りの旅は、コロナの影響を鑑みまして、本年度は中止とさせていただきます。

寺子屋委員会の皆様とは、本年から都内の寺院を巡る旅を企画しており、芝の増上寺様の参拝にうかがう予定でございました。また、来年以降のコロナの状況を判断致しまして、皆様にご連絡申し上げます。

大晦日・除夜の鐘は行います

例年大晦日の二十三時四十五分頃から除夜の鐘を皆さんに撞いていただいています。年末を迎えてもコロナの状況は変わらないと感じますが、行列を工夫して除夜の鐘を撞いていただこうと思っております。

秋を代表する花のひとつに彼岸花があります。鮮やかな赤い花といい、すっとした立ち姿といい、美しい花ですが、どうも思みきられる傾向があるようです。有毒植物であることと、墓地によく咲くの見かけることから不吉な印象を人々に与えるためであろうと考えられています。そのためか、この地方の方言として、「この花を取ると手のはれる」からテツパレとか、「これを口にすると歯が欠ける」ことからハコボレなどと呼んでいます。全国的に彼岸花の方言名は多く一千種以上もその呼び名があるといわれています。それだけに人々とかかわりあいをもってきた植物であるといえます。球根は有毒で、食べたりすると吐き気や胃痛がおこりますが、煮たりしてでんぷんにすることによって食べられるので、飢饉のときの救荒植物となりました。

江戸時代、川崎村の村明細帳に飢饉のときの食物は「とこ路宇志やうろ」であったことが記録されています。

「宇志やうろ」は、「うしやろう」と読み、ユリ科のツルボの方言です。羽村の方言では、「おしやろう」と呼ぶことが多かったようです。ツルボは、土手や畑まわりなど、日あたりのよい草地に生える多年

草です。初秋に可憐なピンク色の花を多数つけます。球根は約二センチの卵形をしていて、昔は食用とされていました。

福生村の田村金右衛門が明治二年（一八六九）に記した『見聞夜話』に、「うしやろうをほり来たり、一昼夜も釜にて焚き、水あめのごとく制し、こがしにつけ食す。」とあります。このようにして作ったツルボの球根が、美味しかったかどうか残念ながら書いてありません。

「とこ路」は、オニドコロのことです。オニドコロは、山野に生えるつる性の多年草です。葉は互生し、ヤマノイモより幅の広いハート形。花は夏に咲き、雌雄ともに淡黄緑色。地下に根茎（こんけい）があり、曲がってひげ根が出るさまを老人にたとえ、海老に対して「野老（ところ）」と呼び、長寿を祝って正月に飾ったといわれています。

所沢の地名の起源は、平安前期の歌人、在原業平が東国巡遊の折、この地に休んだとき、付近一帯が沢で、野老が多く生じていた。これを見た業平が「此地は是れ野老の沢か」といったことから村名になったという説があります。

あきる野市戸倉の光厳寺（臨済宗建長寺派）境内に、市指定文化財の「ところ芋の碑」があります。その碑の説明には、「天保の飢饉に際し、ところ芋を掘りにきた他村の人々を追い払う村人を押さえ、掘るに

まかした名主の徳をたたえたもの。」とあります。碑文は、天保七年（一八三六）一月、光厳寺第四七世住職柏岩和尚が記しています。碑文を意識すると次のようになります。

戸倉の山は宝の山、秋ともなれば、拝島から一晚中掘りに来るし、熊川からも暗い中に来る。河崎（川崎）も負けずに掘れば、福生の連中は腕と頭に任せて掘りつづける。戸倉の名物山の芋。他所者には掘らせるなと名主に村民が訴えたが、太っ腹の名主さん、山の芋は自然の恵み、掘らせてあげなさい。

とあり、柏岩和尚は、その名主の行為を称えてこの碑を建てたのです。

天保の飢饉は、天保三年（一八三二）から天保九年（一八三八）にかけて、連年ように凶作が襲ったので七年飢饉と呼ばれています。飢饉は、東北地方を中心に多くの餓死者をだしました。弘前藩では、天保期を通じて餓死者が三万から七万人余とも伝えられています。

「ところ芋の碑」から、天保の飢饉がこの地域にも大きく影響を及ぼしていたことがわかります。

《参考図書》

『はむらの植物ガイド』。岡崎学「うしやろう始末記」（『会報羽村郷土研究第六〇号』）。

正俊閑栖日記

ようやく幾分涼しくなりホッと一息です。コロナの生活にも慣れてきて、お寺の行事もそこそこ行われるようになりました。お薬師様の大祭は難しいですが、法要は丁寧に行います。

六月

- 寺の西の土地(二丁目) 四三四㎡、正式に雨倉利夫さんと契約 6/2
- 新井政昭さん、みかんの木を植樹して下さる。庫裏東と焼却炉西。 6/5
- 朝粥坐禅会 朝六時に暁鐘、坐禅、粥坐をいただく九時まで。十三人。 6/7
- 大船塩之入内科。定期検査。建長寺へ宗禅寺規則の変更届提出。 6/8
- 隣組・雨倉水道屋さん建物撤去終了。きれいに整地され、見通し良くなる。 6/11
- 京都禅文化研究所より、評議員の依頼が来る。 6/12
- 鎌倉春秋社の原稿完成。横田南嶺老師

『祈りの延命十句観音経』読了 6/13

○五口市秋川の山荘でBBQ。 6/14

○体重62キロ代になる。Wと作務(労働)食事の減の効果出る。 6/17

○鎌倉・松ヶ丘文庫評議員会。 6/17

○宗禅寺規則の変更(収益事業開始の為)届を東京都庁に提出。 6/19

○定期検査結果、検査数値、全て基準内に。先生曰く、薬のせい。 6/24

○境内の掃除・庭・植木などウオーキングの前にする。三時過ぎから。 6/26

○体重61キロ代に入る。順調すぎる。 6/27

○表参道・マノワールデインでオーナーの引退食事会。寺で、寺子屋委員会十人全員の出席。いい勉強。 6/28

●六月の来山者はほぼ六百人。去年は九百三十人でした。コロナ恐るべしです。

七 月

○お盆の月で、例年なら近隣のお寺のお施餓鬼に行きますが、今年はすべて自粛。それぞれの寺だけで行う。体は楽だが、今迄の習慣がなくなるのは?。

○田原総一郎『戦後日本政治の総括』読了。戦後七十五年のふりかえり。

○健康体操 禅センターで十三人。 7/3

○焼却炉の煙、においの苦情。言い訳。お寺は塔婆などのお焚き上げは、法律(?)で許可されています。 7/4

○朝粥坐禅会十六人。終了後、戸外し、施餓鬼棚など支度。いつも乍ら、ありがとうございます。夕刻、薬師講会議。今年

は薬師如来大祭は中止。法要は例年通り、行うことが決定。コロナ。 7/5

○うどん教室 冷やし狸、美味。 7/6

○中外日報、取材に来山。彭丹さんも、蘭溪録出版のこと。会食も。 7/7

○鈴木土建、西駐車場整地。星野造園、三社堂周辺整備。さっぱりと。 7/10

○本堂前庭に、施餓鬼棚移動。今年はお外で皆さんにお参りしていただく。 7/11

○鎌倉・松ヶ丘文庫、鈴木大拙忌 7/12

○鈴木土建さん、薬師堂西の駐車場、水たまり改良工事して下さる。感謝 7/13

○お盆早朝坐禅会 十三日より十六日まで。少人数だが丁寧に行う。

- 寺の建物の中も、境内も綺麗になって気持ちがいい。清潔で温かな寺に 7/14
- 施餓鬼大法要 十時総代・薬師講中来山支度。二時法要(本堂内は新盆の方六十人)。永昌院さんのホラ貝、お経、片付け後四時、客殿でお齋。受付二百人、墓参の方多し。 7/15
- 山本秀也『習近平と永楽帝』読了。送り盆のお参り多し。お盆は例年と変わらず、たくさんの方来山。ほぼ九百人 7/16
- 円覚寺前管長・足立大進『もう死んでもいいのですか、ありがとう』読了。 7/19
- 体重60キロ代になる。鈴木土建、西駐車場整備完了。きれいになりました。ありがとうございます。 7/20
- 写経の会、十五人。土曜講座用に客殿、机・椅子セットして下さる。 7/21
- 村上春樹『猫を捨てる』読む。村上さんの父は、お寺の息子だった。 7/22
- 土曜講座 私が再開のあいさつ。和正住職仏教講座、菊池玉雲さん講談・大菩薩峠、島田秀男さん介山の小説。雨の中四

- 十人の方来山。全員マスク。 7/25
- 大船・塩之入内科 喫茶店フォー・ユ1。旧交を暖める。帰山して掃除・W。 7/27
- うどん教室 宗禅寺御詠歌講。 7/28
- 寺子屋委員会 勉強会。四時〜 7/29
- 銀座・永井画廊『並木恒延展』へ。 7/30
- 七月の来山者は一八八〇人で、昨年と変わりありませんでした。お盆のお参りは、皆さん例年通りおいでになっています。御先祖への篤い思い。
- 八月
- 朝粥坐禅会 十六人。終わって掃除。 8/2
- 横田南嶺『自分を創る禅の教え』読了。 8/2
- 本堂南の間廊下「カブト虫」展示終了。「土偶」八体を展示。来山の方に、いろんな物を見てもらえる場所。 8/7
- 蓼科の別荘に招かれる。二日間、涼しくのんびり、車山高原へも。 8/8・9
- 写経の会 十人。コロナですが、写経の会と坐禅会は休まずやっています。 8/11

- 鈴木土建 裏(北)駐車場、万年堀撤去。明るく広くなりました。気持ちよくなります。感謝。 8/11
- 越生、正法寺施餓鬼へ。宮下家兄妹会で岩井屋さんで食事。 8/13
- 鎌倉塾 鎌倉美学でカブト虫の石井秀卓さんのふりかえり人生。駅前のメトロポリタンホテルに初投宿。 8/14・15
- 横田南嶺・五木寛之『命ある限り歩き続ける』読了。再読の要あり。 8/16
- 益尾知佐子『中国の行動原理』読了。
- 土曜講座 和正住職。「みんなの憲法」羽村幸子。『五日市憲法』を学ぶ、新井勝紘先生。聴衆四十人皆感動。 8/22
- 小松みゆき『動き出した時計』に宗建寺さん登場。ベトナム残留の日本兵 8/23
- 寺子屋委員会・勉強会 8/25
- 今年の夏は特別に暑く感じました。コロナに追い回されていますが、大分落ち着きました。亡くなる人が、他の国より少なくほっとします。
- 八月の来山者はほぼ五四〇人。昨年的一半以下でした。

和正和尚日單

○書道教室 和尚による書道のお稽古が再開。毎月一回。 6/16

○消防 昼間に車庫で役員会。消防も活動再開。 6/21

○土地登記 西駐車場の登記等を駅前農協で。中野祐司総代長、新井政昭総代立ち合い。 6/30

○朝粥坐禅会 坐禅会、写経会は継続的に開催中です。坐禅会後、皆様とお盆の支度。 7/5

○薬師講役員会 墓地清掃後に役員会。施餓鬼のこと、とうろう流しのこと、お薬師様のお祭りのこと、色々報告と協議。 7/5

○うどん教室 うどん教室も静かに再開。ごちそうさまでした。 7/6

○保護司 立川保護観察所にて研修。就任間もない保護司さんが対象。保護司のイロハを教えてください。 7/9

○消防 夜の訓練が再開。 7/10

○お盆早朝坐禅会 お盆期間中の朝の坐禅。参加者多数。 7/13~16

○山門施餓鬼会 毎年七月十五日は盂蘭盆供養。今年はコロナで新盆を迎える皆様のみで儀式を行う。終わって客殿で久しぶりに打ち上げ宴 7/15

○消防 夜の訓練。訓練終わって片づけておしまい。 7/15

○ルリカノ 幼稚園で卒園アルバムの写真を撮影したそうです。来年から小学生。抱っこも重くなりました 7/20

○土曜講座 休止していた土曜講座が再開。四月予定だった中里介山特集。菊池さんの講談と島田文庫長の講演。四十名ほど。 7/25

○寺子屋委員会 寺子屋も再開。中野喜一さん、島田松市さんの資料を皆で一緒に読む。 7/29

○消防 東京都から配備された新しい可搬ポンプを動かしました。 7/29

○ルリカノ うきうき保育。コロナがなければお泊り保育でした。午後から夜まで幼稚園で過ごしました。保護者の参加はなくなりました。 7/31

○朝粥坐禅会 参加者十四名。おかゆも美味しい。 8/2

○消防 車庫で役員会。今後の予定と十五日の訓練の準備。 8/11

○越生正法寺 父と母とお盆の施餓鬼会へ。淑子母実家の菩提寺。 8/13

○消防可搬ポンプ訓練 水上公園で全分団10名ずつの合同の訓練。台風等、大雨を想定し大雨で溢れた水をポンプを使って川に逃がす。暑い。 8/15

○三芳多福寺 施餓鬼会へ。ここは谷中の母の実家。住職は従兄です。法要後に祖母の墓参。 8/16

○夏期保育 毎年の幼稚園の夏期保育が始まりました。お誕生日会にスイカ割り。十一時半降園。 8/17~21

○土曜講座 五日市憲法特集。羽村幸子さんグループ自主製作の映画鑑賞と新井勝紘の講演「土蔵の中で五日市憲法を最初に手にしてから五十年」。アメリカでも再び人種差別がクローズアップされていますが、とても大切なことです。 8/22

○東小学校 消防で九月に小学生に授業をする。先生方と打ち合わせ 8/25

○建長寺土曜法話 三門下の土曜法話も再開されました。毎週土曜日、建長寺の三門下にて法話を聞くことができます。 「直指人心」禅はこころ」 8/29

土曜講座のお知らせ

檀家さんにとらわれず、どなたでもご参加できます。予約不要、お茶代三〇〇円。

◆第四十六回 九月二十六日(土) 十三時〜十六時 仏教講座 「日本仏教史その7―神仏習合―」

住職 高井和正

・おかいこさん(養蚕)と永昌院

福生市 永昌院住職 桑林茂雄師

・カイコログ(谷口梯三、松岡洋子)の皆さん

・世界を広げる新聞の力

・NIE企画デザイナー 鹿野川喜代美さん

◆第四十七回 十月三日(土)十六時〜十八時頃

「口ナ追悼 退散祈願 薬師如来大祭」薬師堂にて

・鎌倉流御詠歌の奉詠 宗禅寺御詠歌講中の皆様

・コロナ物故者追悼・退散祈願法要

・百万遍数珠回し

・ヴィオラの演奏 本堂にて

ヴィオラ講師 田村しおりさん

・講談「川崎一本木薬師堂縁起」

講談師 菊地玉雲師

◆第四十八回 十一月十四日(土)十三時〜十六時

・仏教講座

「日本仏教史その8―浄土思想―」

住職 高井和正

・高齢者介護の現場から

特別養護老人ホーム 神明園

園長 中村正人さん

・羽村の水田維持と日本酒「はむら」の話し

清水亮一さん

◆第四十九回 十二月五日(土)十三時〜十六時

・お釈迦様のお悟りと神社のこと

・ご詠歌奉詠 みんなで読経

・仏教講座

「日本仏教史その9―法然―」

住職 高井和正

・お釈迦様の悟りと禅

閑栖住職 高井正俊

・武蔵御嶽神社の歴史

武蔵御嶽神社前宮司 金井国俊神職

◎頑張ってやっています。お出かけ下さい。

鎌倉禅研究会開講のお知らせ

勇気をふるって再開します。鎌倉建長寺での公開講座です。どなたでも参加できます。入山料と資料代、各五百円。

◆第百六十三回 十月十五日(木)十三時〜十六時半

・中世禅林の僧坊酒宴

明星大学准教授 芳澤 元 先生

・鎌倉時代の喫茶文化

京都造形芸術大学講師 橋本 素子 先生

◆第百六十四回 十一月十二日(木)十三時〜十六時半

・禅宗の喫茶文化

早稲田大学大学院 廣福寺副住職 白川 宗源師

・禅宗の読誦経典

鶴見大学講師 徳善寺住職 尾崎 正善 先生

◆第百六十五回 十二月十日(木)十三時〜十六時半

・建長寺第二世兀庵普寧の語録を読む

法政大学講師・建長寺研究員 彭丹 先生

・建長寺開山蘭溪道隆禅師の『心経注』

足利工業大学講師 福巖寺副住職 采澤 良晃師

・

・

・

・

・

宗禅寺毎月の活動

―お寺で新たな自分の発見を―

- 朝粥坐禅会……毎月第一日曜日 朝6時〜8時半 一日の始まりに坐禅。坐禅後、禅の作法でおかゆをいただきます 10/4 11/1 12/6
- 土曜坐禅会……毎週土曜日 子供:18時〜19時 大人:19時半〜21時 大きくゆっくりと呼吸をすると静かな自分に出会えます。 ※年末は12月19日まで。 年明け16日から
- 彼岸早朝坐禅会……彼岸中毎朝6時〜7時 (9月19日(土)〜25日(金)) 鐘を撞きながら般若心経をお唱えしてから坐禅をします。
- 土曜講座……毎月一回の勉強会。13時〜16時 地域文化の共有と創造を目指し、地域伝統を後世に。 9/26 10/3
- 写経会……毎月1日、11日、21日、13時〜15時 般若心経の写経をしています。 支度、片付けは全員で。 ※年末21日まで行います。正月元旦はお休み11日から。
- 御詠歌……毎月第1・3火曜日 1時半〜3時 指導:高井淑子
- 手打うどん教室……現在2クラス開講中。月一回。講師:島田辰夫先生
- 木彫教室……毎月第1・第3土曜日 13時〜16時まで 講師:新井達矢先生 場所:宗禅寺禅センター 仏像や能面を自分で彫ってみませんか? 月謝5000円(道具、材料費は要別途)
- 俳句教室……毎月1回、適宜。 問い合せ先:中野つたえ ☎554-2444
- 尺八吹禅の会……毎月第1、第3月曜 夜7時半〜9時頃 坐禅15分、練習60分、問い合せ:坂井陵童 ☎554-3273
- 介護予防体操……みんなで基礎体力のための健康体操をしています。 直接、禅センターにお越し下さい。 毎週金曜日14時〜15時半 予約不要
- お寺de……タロットを使った心理セラピー 宗禅寺禅センター
- こころの相談 毎週日曜日 1時〜6時 無料・要予約 ☎090-6792-4784 ハムサまで
- 女性サンガの会・薬師講・寺子屋委員会・護持会 ―活動中です―
- 宗禅寺禅センターをお使い下さい。